

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 For happiness Sol

公表日 令和8年2月28日

利用児童数

36名

回収数

32

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25	2	0	5		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	22	2	0	8		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24	1	0	7		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	26	0	0	6		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26	3	1	2	職員に差があると感じる	支援方針および具体的支援内容についてケース会議を充実させ、共通理解の徹底を図るとともに、定期的な研修実施により専門性の均質化を進める。  支援マニュアルの整備および事例検討の仕組みを強化し、担当職員にかか
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25	3	0	4		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	31	1	0	0		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24	2	0	6		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	24	4	0	4		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29	1	0	2		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13	1	6	12		
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	31	1	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	30	2	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	4	3	6	あるが、タイミング合わず参加できていない	定期的な開催と、開催に向けた早めの企画、周知を行う。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	28	3	0	1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	7	0	1		

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28	2	0	2		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	4	6	8		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	3	1	5		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	3	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	28	1	0	3		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	29	1	0	1		
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	26	1	0	5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	29	0	0	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	2	0	2		
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	1	1	6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	29	2	0	1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21	8	3	0	事業所さんの中に入る前は不安がまだ、ある様子ですが、事業所さんの中に入ってからは楽しく活動している様子です	来所前の不安軽減を目的に、事前の見通し提示(当日の活動内容の説明やスケジュールの視覚化)を強化し、安心して入室できる環境づくりを行う。
	29	事業所の支援に満足していますか。	27	4	0	1		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		For happiness SoL		公表日		令和8年2月28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	療育スペースは土足禁止のマットになっているため、掃除機や除菌消臭スプレーを使って清潔を保っている。水回りなどは毎日掃除をしている。	活動人数や内容によっては十分なスペース確保が難しい場合がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	クールダウンの部屋を2部屋用意し、メンタルのアップダウンや疲れ、体調不良等必要に応じて利用できる環境を作っている。	活動内容によっては空間が十分に確保できない場合がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	0			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	指摘事項を業務改善や支援方法の見直しに反映するよう努めている。	外部評価の実施頻度や継続性に課題がある可能性がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	0			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	活動内容が固定化しないよう定期的に見直しを行っている。	公表方法(HP・掲示等)が十分に活用されていない可能性がある。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	0			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	0			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	本人支援を中心に、個別アセスメントに基づいた具体的な目標設定を行っている。	家族支援・移行支援・地域連携の内容が抽象的になりやすい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	日々の支援内容や子どもの様子を記録し、情報共有を図っている。気付きや変化を記録に残し、次回支援に活かすよう意識している。	記録時間の確保や様式の簡素化など、効率化の工夫が必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	6	0		
25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	0			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	2	必要に応じて就学前施設と連絡を取り、児童の情報把握に努めている。保護者を通じて支援内容や配慮事項の共有を図っている。	直接的な情報共有の機会が限られ、継続的連携に課題がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2	必要に応じて児童発達支援センターへ相談し、助言を求めている。	定期的なスーパーバイズ体制が確立されていない可能性がある。
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	4	2	放課後児童クラブや児童館の情報を把握し、交流ができないか検討している。	定期的・継続的な交流機会の確保が十分とは言えない。	

関係機関や保護者との連携	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4	2	案内があった際には可能な範囲で協議会へ参加している。	業務との兼ね合いで参加が限定的になりやすい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	面談や日々の連絡を通して、家庭での関わり方について助言や情報提供を行っている。	家族向け研修を定期化し、継続的支援体制を整える必要がある。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	6	0		
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	行事やイベントを通して、地域との関わりを持つ機会づくりを意識している。	地域住民を招く機会が定期的に確保できていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	各種マニュアルを整備し、職員へ周知するとともに共有体制を整えている。	家族への周知や理解促進が十分でない可能性がある。訓練内容の振り返りや改善サイクルをより明確にする必要がある。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	0		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	0		

非常時等の対応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	身体拘束は最終手段であることを職員間で共有し、組織的判断を徹底している。必要な場合は事前に保護者へ説明し、同意を得た上で計画に明記している。	判断基準や手順の周知に職員間でばらつきが生じる可能性がある。実施後の記録・検証・再発防止策の明確化をさらに強化する必要がある。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	For happiness SoL		
○保護者評価実施期間	R8年2月3日		R8年2月18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	R8年2月24日		R8年2月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月28日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	計画作成からモニタリングまでの支援プロセスが安定し、チームで共有できている体制。	支援前後に必ず打合せを行い、役割分担や支援内容を明確化している。	支援効果の見える化を進め、成果や課題を数値や指標で共有する体制づくり。
2	職員間の打合せや振り返りが定着し、連携を重視した支援体制が確立している点。	個別アセスメントを丁寧に実施し、計画作成時に複数職員で検討している。	ガイドライン四領域の視点を計画様式に明確化し、記載漏れ防止を強化する。
3	保護者への説明・同意・相談対応が丁寧で、信頼関係が構築されている点。	ヒヤリハット共有や研修参加により、安全管理と資質向上を図っている。	ケース検討会や外部研修内容の共有を定期化し、専門性の底上げを図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	環境構造化や個別スペース確保に関して評価が分かれている点。	物理的スペースや設備面の制約により、環境整備が限定的になっている。	室内ゾーニングや視覚支援表示の工夫により環境構造化を進める。
2	地域機関や児童発達支援センターとの連携機会が十分とは言えない点。	外部機関との調整や参加時間の確保が業務上難しい状況がある。	年間連携計画を作成し、外部機関との定期的な情報交換機会を設定する。
3	第三者評価や外部視点の導入が十分に定着していない可能性。	業務多忙により、外部評価や地域活動への優先度が下がりがやすい。	第三者評価や自己点検チェックリストを活用し、客観的視点を取り入れる。